

ぼらぶら
月間情報

2021

10月

- : プラザ催しなど
- : ボランティア・市民活動団体催しなど
- ▲ : 市民活動センターで行われる上記団体催し
- : ぼらぶら 休業日

日	曜日	催し物	
1	金	高齢者ボランティアポイント説明会	●
2	土	みきおもちゃ病院 パソコン定期相談会	▲
3	日		●
4	月	コミュニケーションマージャン体験会	▲
5	火	はじめての Zoom 体験会	●
6	水	はじめての Zoom 体験会	●
7	木	はじめての Zoom 体験会	●
8	金	朗読ボランティア初級技術講習会 (初回・要申込)	●
		高齢者ボランティアポイント説明会	●
		はじめての Zoom 体験会	●
9	土	はじめての Zoom 体験会	●
10	日		
11	月		
12	火		
13	水	要約筆記ボランティア入門講座 (初回・要申込)	●
14	木		
15	金	高齢者ボランティアポイント説明会	●
16	土	みきおもちゃ病院 パソコン定期相談会	▲
17	日	きらきら書道	▲
18	月	コミュニケーションマージャン体験会	▲
19	火		
20	水		
21	木	市民活動センター 休館日	
22	金	高齢者ボランティアポイント説明会	●
23	土		
24	日		
25	月	BANBA しゃべろう会	■
26	火	ファミサポ協力会員はじまり講座	●
27	水		
28	木		
29	金	高齢者ボランティアポイント説明会	●
30	土		
31	日		



～なあったら もうけもの～
みきおもちゃ病院

セカンドライフ応援講座「おもちゃドクター養成塾」
を修了したボランティアで「三木おもちゃ病院ドクター
グループ」が結成され、病院を開設しています。

- 開院日：毎月第1・3土曜日
10:00～12:00
- 会 場：三木市立市民活動センター
- 問合せ：ボランティア活動プラザみき ☎ 83-0090

朗読ボランティア初級技術講習会

視覚に障がいがある方への理解を深め、**朗読・音訳**
を通じて情報提供ができるボランティアの養成を図
る講習会です。

- 日 時：10月8日～12月3日
(11月19日を除く毎週◎全8回)
10:00～12:00
- 場 所：三木市立市民活動センター
- 対象者：朗読やボランティア活動に
興味・関心のある方
- 定 員：10名(定員になり次第締切)
- 受講料：2,500円(テキスト代等)
- 問合せ・申込先：ボランティア活動プラザみき
☎ 0794-83-0090

要約筆記ボランティア入門講座

聴覚に障がいのある方への理解を深め、話してい
る内容の要約を文字で伝える「**要約筆記**」につい
て学び、聴覚障がい者の社会参加を促進すること
を目的に開催します。

- 日 時：10月13日、20日、27日(毎週◎全3回)
10:00～12:00
- 場 所：三木市立市民活動センター
- 対象者：要約筆記やボランティア活動に
興味・関心のある方
- 定 員：10名(定員になり次第締切)
- 受講料：500円(テキスト代等)
- 問合せ・申込先：ボランティア活動プラザみき
☎ 0794-83-0090

新型コロナウイルス感染防止のため、
催しに変更・中止になる場合があります。
■問合せ：ボランティア活動プラザみき
☎ 83-0090



ボランティア・市民活動者のための活動応援情報

(発行)
三木市社会福祉協議会
ボランティア活動プラザみき
〒673-0403
三木市末広 1-6-46
(市民活動センター内)
TEL 0794-83-0090
Fax 0794-82-6666
e-Mail mvsc@miki.or.jp

10

Vol.287

2021.10.1

「第4次 地域福祉活動計画」の策定を通して

5年先の地域の福祉について協議が始まっています

福祉(ふくし)とは「**ふだんの** **くらしの** **しあわせ**」を意味します。高齢になっても、障がいがあっても、若い世
代でも、安心して暮らし続けられる三木市であることが、住民誰もの願いではないでしょうか。時代とともに
変化する地域福祉のあり方や、with コロナの社会情勢の中、5年後に「こうなっていたらいいな」という地
域の姿をイメージし、それが実現に向かうような計画づくりを進めています。そのため、住民代表である民生
委員・児童委員や地域活動者、学校関係者や企業等で構成する計画策定委員会で、住民視点の話し合いを重ね
ています。

計画づくりの方向性①

いま生じている地域課題に取り組む

- 高齢者の一人暮らしでは重いゴミ出しが大変。
- 運転免許返納後はどうやって買い物に行く？
- 子育て中は閉鎖的になりがち。誰かと育児に
ついて話したい。

など、住民の暮らしの中から出てくる地域課題を、ま
ず知ることが大事です。そのうえで、課題の目標を定
め、住民一人ひとりや地域がどのように、何に取り組
むかが具体的に示されます。

計画づくりの方向性②

地域で課題に取り組む仕組みをつくる

- 困り事ができた時、一体誰に相談すればいいの？
- 誰かの困り事を地域みんなで考えるためのしくみは？
- 地域や行政、多様な主体が力を合わせて地域づくり
する体制は？

など、地域全体で考える必要がある課題は、その共有
方法や、話し合った結果が住民に届くことが重要です。
住民や自治会、ボランティアグループ、事業所や行政
などが協力してつくる、支えあいの仕組み(双方向の
ネットワーク)が盛り込まれます。

皆さんもぜひ！

地域の人と人とのつながりをもとに、
ともに支えあう地域づくりのために、身近な方々と話合ってみてください！

11月
20日(土) 21日(日)
に開催します！



みきボランティアフェスタ2021

体験ひろば体験者募集

今年の「みきボランティアフェスタ2021」は、体験ひろばを新型コロナウ
イルス感染症対策に配慮して**完全予約制**にて開催します。

体験ひろばは、様々なボランティア・市民活動団体の活動を体験できるコーナーです。
体験メニューは自分で選ぶことができます。ただし、体験できる人数に限りがあるた
め、ご希望に添えない場合があります。ご了承ください。

体験できるメニューや申し込み方法については、10月中旬以降発行の
新聞折り込みまたは、みきボランティアフェスタのホームページを順次
更新しますので、ご覧ください。

みきボランティアフェスタ



インターネット出演でつながり合いの可能性を発見 ～文化・芸術系グループの新たな挑戦～

ボラ・プラみきの
アクション・レポート
(25)

～市民のチカラ～

◆ インターネットを活用した新たな活動が始動！

新型コロナウイルス感染予防対策として緊急事態宣言が発出されるたびに、地域でのボランティア・市民活動をしばらくの間停止しています。状況が落ち着くまで活動を休止して待つ、出来る時を見計らって活動する、今までと同じ形ではなくても何とか活動を継続するなど、活動者やグループで様々な判断をされています。中でも、地域のイベントやふれあいサロン、介護施設等に音楽や演芸、伝統文化等のパフォーマンスを届ける文化・芸術系のグループは、披露の場や機会が激減しています。それに伴うメンバーの活動意欲の低下やパフォーマンス技術の低下を危惧したあるグループが、オンライン会議ツール「Zoom（ズーム）」を用いたインターネット出演に挑戦しました。

◆ ジワリとを感じる、生パフォーマンスに劣らない魅力

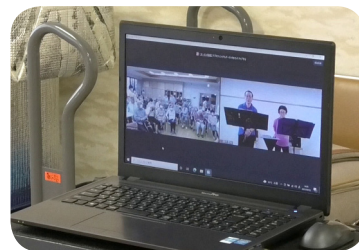
9月22日、ボランティア活動でハーモニカ演奏を行うグループ「ミッキーカルテット」のメンバーが緊張の面持ちでカメラの前に立ちました。市内のデイサービスセンターの余暇時間が出演ステージです。コロナ禍で出演依頼がほとんどなくなり、いくつかの予定が入ってもキャンセルや延期になるといったことが度々ありました。ハーモニカの音色を聴きたいと楽しみにしてくれる人があることを励みに練習を続けていましたが、気持ちがしほみそうになることもあったそうです。今回、画面越しにどれだけのものが伝わるか若干の不安はありましたが、音楽を通して誰かに癒しや楽しみを感じてもらうため、自分達のイキイキとした活動のために取り組まれました。

出演先との画像や音声チェック等、初めての作業は大変ではありましたが、デイサービスセンターの職員と一つ一つ確認しながら何とか接続することができ、聴衆である利用者の姿がパソコン画面に映った時にはホッと安堵の息がもれました。「聞こえますか？」の問いかけに画面の向こうから両腕でマル印をつくってくれたり、ハーモニカのメロディーに合わせて手拍子してくれたりする様子が、徐々に緊張がほぐれて気持ちが乗ってきます。30分間の出演を終えて「また会いましょう」と手を振り合った後、「やってやれないことはないね」と話すメンバーの表情が光っていたのが印象的でした。

◆ つきつめたいのは、ボランティア・市民活動の本質

コロナ禍でインターネットを使った取り組みがクローズアップされ、子どもから高齢者まで日常的に活用することが多くなってきました。それでも芸術はやはり生のパフォーマンスが最高！と感じる気持ちもありますが、その機会が得られないために、音楽に触れたり楽しむことができないのは寂しいものです。現にハーモニカ演奏を聴いた方々は、どんな方法であっても楽しい時間を届けてもらえたことに感謝しておられました。また、物理的に距離があっても心は近づくことができる、つながりを実感できた体験でもありました。

ボランティア・市民活動においては、内容やプログラムだけでなく、その活動を通してもたらされるものにこそ意義があります。活動の対象となる人々、活動を展開する人々がつながり合い、互いに盛り立て合うことで、皆の力が高まっていくのではないのでしょうか。同時に、活動を受け入れる側の、つながるための意識や柔軟な対応、設備等の準備に向けた動きも重要です。一緒に過ごす時間や場をつくり出す努力が双方ともに求められます。様々なものを上手く活用する発想とチャレンジ精神で活動の目的を果たしていく、パフォーマーたちの今後の活躍が楽しみです。



助成金情報

助成金等名称 〔申請等期日・期間〕	助成内容	問合せ・申込先
令和4年度 「麒麟・地域のちから 応援事業」(麒麟福祉 財団) 令和3年9月10日(金) ～10月31日(日)	障害があってもなくても、高齢者でも子どもでも、日本人でも外国人でも、同じ地域やコミュニティで生活する一員として、共に理解し合い・支え合う共生社会の実現を願い、地域における障害児・者、高齢者、子ども等の福祉向上に関わる、幅広いボランティア活動を実施する団体に対して助成します。 〔助成対象活動〕 (1) 子ども・子育て世代の福祉向上に関わるもの (2) シルバー世代の福祉向上に関わるもの (3) 障害や困りごとのある人・支える人の福祉向上に関わるもの (4) 地域やコミュニティの活性化に関わるもの 〔助成対象団体〕 4名以上で活動する団体・グループ 〔助成金額〕 1件(1団体)あたりの上限額：30万円 〔問合せ先〕 公益財団法人麒麟福祉財団 事務局 〒164-0001 東京都中野区中野四丁目10番2号 中野セントラルパークサウス ☎ 03-6837-7013	申込書類や詳しい内容についてはホームページをご覧ください。 https://foundation.kirinholdings.com

Vol.3

コロナ禍だけど頑張るボランティア・市民活動団体をご紹介 広野小学校区子ども見守り隊

広野小学校区子ども見守り隊は、2004年12月に結成しました。老若男女を問わずに行える身近な健康づくりの取り組みとしてのウォーキングを活かし、地域の子どもの安全な通学路を確保する防犯活動として、毎朝、広野小学校に通う子ども達の見守り活動をされています。

取材当日の朝は見守り隊のメンバーに同行し、子ども達の集合場所へ行くと、元気よく「おはようございます」と挨拶してくれました。見守り隊のメンバーが、子ども達の人数を数え、全員が集合していることを確認し出発しました。学校に行くまでには、狭い歩道や、車通りの多い信号機のない横断歩道もありました。仕事のない時間帯は見守り隊として活動されているお母さんは、「通学路には危ない箇所がたくさんある。仕事で見守り隊の活動ができない日も、他の見守り隊のメンバーがついてくれているので安心です。」と話してくださいました。登下校中にトイレに行きたくなったり、忘れ物に気づいたりする子どももいるそうです。そんな時に子ども達にとって頼れるのは見守り隊のメンバーです。「小学校を卒業しても顔を覚えていて、出会っ



※写真撮影時のみマスクを外しています。



た時には手を振って声をかけてくれる子もいる」と見守り隊のメンバーが教えてくれました。親でも学校の先生でもないけれど、同じ地域に住んでいる大人と子どものつながりが、この活動では生まれています。

見守り隊のメンバーの多くは高齢者です。活動を始めたきっかけは、自分の健康のためや、お孫さんの小学校入学を機に始めたなど様々です。新型コロナウイルス感染症の流行により、去年は学校が休校の期間もありました。「学校が休校になり、歩かない期間があったことで体に不調が出た。子ども達を見守るという目的があるから、毎日歩くことができる。結局は自分のための活動なんです。」という言葉が印象的でした。今日もまた、自らの健康のためと、子ども達の安全を守る活動を通じ地域の交流が深まっています。